

研究テーマ「日本とオーストラリアの若者の価値観について」

商学部マーケティング学科

久保田 碧

はじめに

現代の若者は、将来に対する不安を広く感じている。特に日本では、経済の先行き不透明さや少子高齢化といった社会問題が影響し、将来への悲観的な見方が広がっていると考えられる。しかし、このような不安は日本の若者に限ったことではない。オーストラリアでも、世界的な情勢の変化や経済的な不安定さが、若者に不安をもたらしていることが本調査により明らかになった。

しかし、両国の若者には「不安との向き合い方」に大きな違いが見られた。日本の若者は、将来の安定を求めて慎重に行動する傾向があるのに対し、オーストラリアの若者は、未来の不確実性を受け入れつつも、「今を楽しむ」ことを大切にする姿勢が見られた。この違いはどこから生まれるのか。本調査では、日本とオーストラリアの若者の価値観を比較し、「将来の不安をどのように捉え、それを乗り越えていくのか」を明らかにすることを目指す。そして、不安を抱えている若者がより柔軟に未来を選択し、充実した人生を送るためのヒントを探る。

1. 【渡航目的・研究テーマについて】

私は就職活動を前に、将来への漠然とした不安を抱えていた。同じような不安を口にする友人も多く、若者の価値観や将来への向き合い方について関心を持つようになった。そんな中、大学の授業でホフステードの6次元モデルを学び、文化の違いが人々の価値観や行動に大きく影響を与えていることを知った。これをきっかけに、日本とは異なる文化的背景をもつ若者の考え方を直接知りたくなった。

本調査では、日本とオーストラリアの若者が抱く「仕事観・結婚観・将来観」の3つのテーマに着目し、統計データでは見えづらい価値観の違いを探った。そのうえで、不安を抱える若者が自身の未来をより柔軟に、前向きに捉えるためのヒントを得ることを目的としている。特に、オーストラリアの若者が「今を楽しみながら将来を柔軟に考える」姿勢に注目し、その背景にある文化的・社会的要因を考察した。

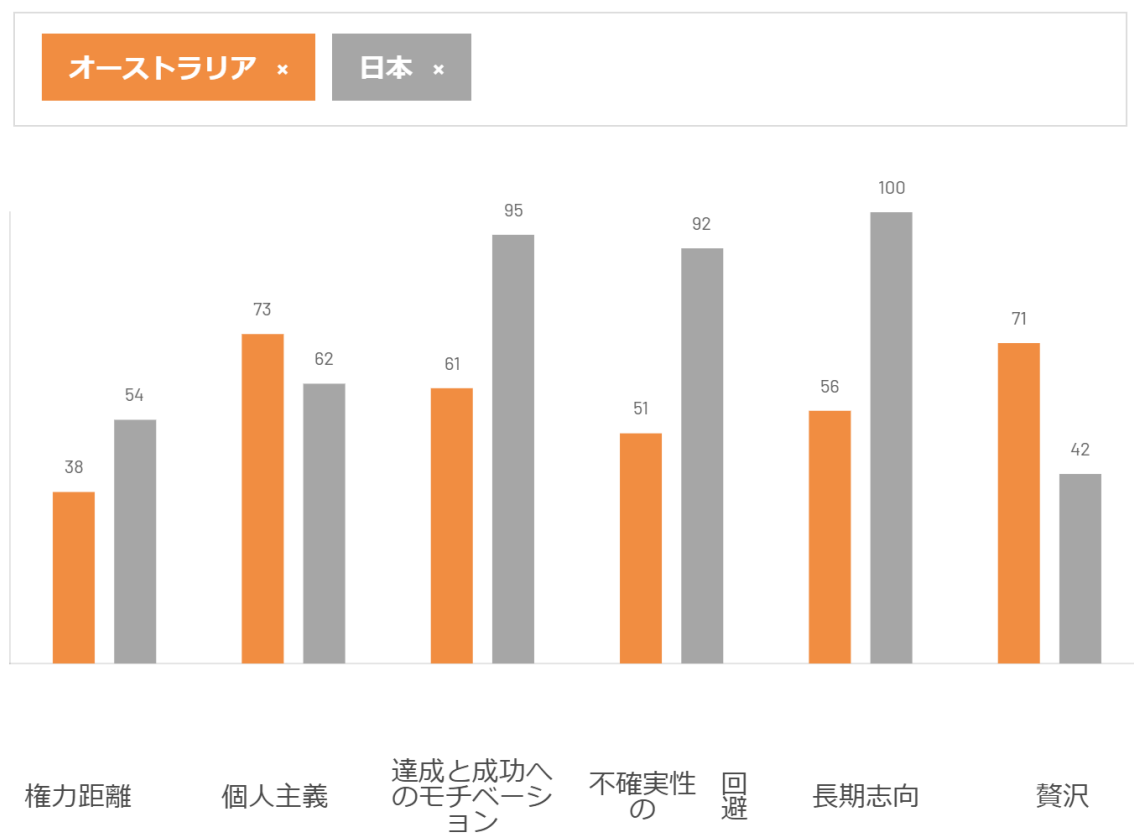
2. 【ホフステード6次元モデルについて】

ホフステード6次元モデルは、異なる国の文化的価値観を6つの指標で評価し、比較可能にするためのツールだ。オランダのゲールト・ホフステード博士によって提唱されたこのモデルは、国ごとの社会背景や文化の違いを数値化し、異文化理解を深化させるのに役立つ。まずは、このモデルを用いて日本とオーストラリアの文化的価値観を比較するため、The Culture Factor Group 社が提供する「COUNTRY COMPARISON TOOL」を使用し、日本とオーストラ

リアの文化スコアを取得した（図1）。

比較の結果、特に顕著な違いが見られたのは「長期思考」と「不確実性の回避」の2つの指標である。長期思考に関して、日本はオーストラリアに比べて長期的視点を重視する傾向がある。これは、将来の安定を求め計画的に物事を進める姿勢として捉えられる。一方、オーストラリアは日本に比べて短期的な目標を大切に、「今」を重視する傾向がある。この違いは、キャリア選択や結婚観への影響が推測される。また、不確実性の回避において日本はこのスコアが高く、不確実な状況を避ける傾向があり、規則や計画を重視し安定を求める。一方、オーストラリアのスコアは低く、柔軟な対応力と新しい挑戦を受け入れる姿勢が強い。この傾向は、仕事や結婚に対する考え方にも影響を及ぼしていると考えられる。

<*図1 Country Comparison Tool（国別比較ツール）>



The Culture Factor Group「Country Comparison Tool（国別比較ツール）」より引用

3. 【渡航計画について】

【渡航計画】

渡航前に3名にインタビューのアポイントを取り、それに基づいて渡航計画を立てた。

月	行動内容	場所
2	1 入国 ホテル	ノースシドニー
	2~3 アンケート調査	シドニー

4	アンケート調査・インタビュー調査 (①日本に留学経験のある男性)	ウーロンゴン
5	アンケート調査、インタビュー調査 (②シドニー在住の女性)	シドニー
6	アンケート調査、インタビュー調査 (③日本に留学経験のある女性)	ウーロンゴン
7~8	アンケート調査	シドニー
9	出国	
10	帰国	

【実際の行動日程】

実際に渡航し、以下の3点を追加で実施した。

1. 文化調査の追加：ハイドパークバラックス博物館へ訪問し歴史的背景を学んだ。
2. JTB Australia へのインタビュー：JTB アジア・パシフィックグループ株式会社の JTB Australia 支店に訪問し、サステナビリティに関するインタビューを実施。
3. 大学でのアンケート調査協力：いくつかの大学に伺い、アンケート調査用紙を掲示・設置してもらうよう依頼。その結果、3校で設置が許可された。

それ以外の行動日程については、概ね計画通りに実施することができた。

月	日	行動内容	場所
2	1	入国 ホテル	ノースシドニー
	2	アンケート調査、文化調査	ノースシドニー、ロイヤル植物園、ハイドパーク、ダーリングハーバー、バラックス
	3	アンケート調査	シドニー大学、Torrens 大学、ハイドパーク、ザ・ドメイン-フィリップ・ブリーシント
	4	インタビュー調査 (①JTB Australia、②日本に留学経験のある男性)	シドニーシティ、ウーロンゴン
	5	アンケート調査、インタビュー調査 (③シドニー在住の女性)	ニュータウン、ハイドパーク
	6	アンケート調査、インタビュー調査 (④日本に留学経験のある女性)	ウーロンゴン、ウーロンゴン大学
	7	アンケート調査	ザ・ドメイン-フィリップ・ブリーシント、ロイヤル植物園
	8	アンケート調査	ビクトリア・パーク
	9	出国	

4. 【調査・交流方法について】

若者の幅広い考えを把握し、その背景や深い考察を探るために主にアンケート調査とデプスインタビュー調査の2つの方法を実施した。

1. アンケート調査

まず、Google フォームを用いたアンケート調査を実施した。対象は18歳から27歳の大学生・専門学生・社会人であり、オーストラリアでは以下の方法で回答を依頼した。

- ・バス停、街中、大学周辺、公園で直接声をかける
 - ・シドニー大学、Torrens 大学、ウーロンゴン大学で、QR コード付きのアンケート用紙を掲示
- 日本では、同様の対象者に対し、主に SNS を通じて回答を依頼した。

アンケートは仕事観・結婚観・将来観の3つの軸で構成され、19問の質問を用意した。この調査方法では、オーストラリアで62名、日本で51名の回答を得ることができた。オーストラリアでは対象年齢層の人を見た目で判断して声をかけるのが難しく、想定よりも十分な回答を得ることができなかった点が反省である。

2. デプスインタビュー調査

次に、より深い価値観を探るためにデプスインタビューを実施した。対象者は以下の3名だ。

- ・日本に留学経験のある男性 大学生（21歳）
- ・シドニー在住の女性 社会人（25歳）
- ・日本に留学経験のある女性 大学生（21歳）

インタビューでは、主にアンケートで深堀することが難しかったテーマである仕事観と将来観について伺った。デプスインタビューでは、アンケート調査で得られなかった具体的な意見や新たな気づきを得ることができた。

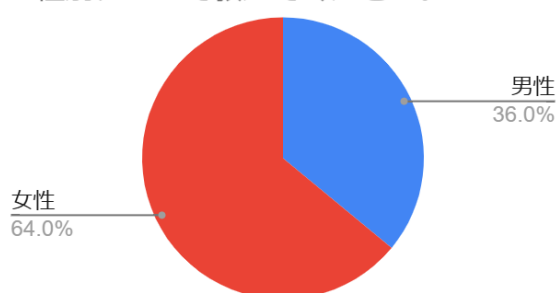
今回の調査・交流方法ではアンケート調査とデプスインタビュー調査を併用して実施した。しかし、想定していたよりも回答を集められなかったため、今後、同様の調査を行う場合は複数人でアンケート調査を行い、デプスインタビューの対象者もより集めて深い価値観の分析を行うことが適切だと学んだ。

5. 【調査・交流結果について】

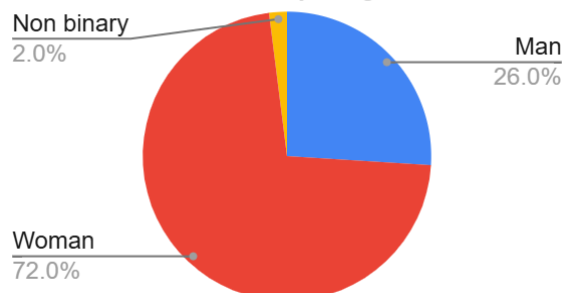
一つ目の調査方法では、価値観を大きく仕事観、結婚観、将来観の三つに分けて回答を集めた。上述した調査対象者に両国とも50名ずつで比較した。なお、オーストラリアは多国籍国家であるため、回答には純オーストラリア人以外も含め、観光客は含めないとする。また、属性については（グラフ1-属性-）で示したものである。グラフ1から9が日本（左）とオーストラリア（右）の結果である。

<グラフ1-属性->

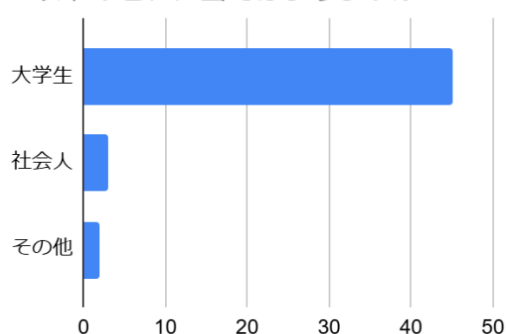
2.性別について教えてください。



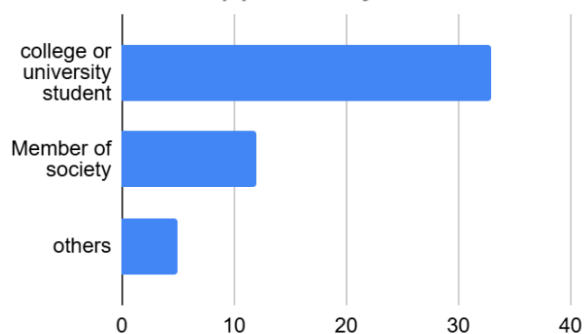
2.Please tell me about your gender



3.以下のどれに当てはまりますか？



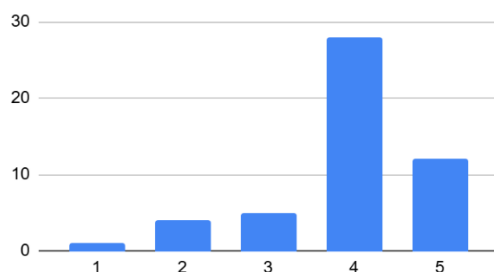
3.Which one applies to you?



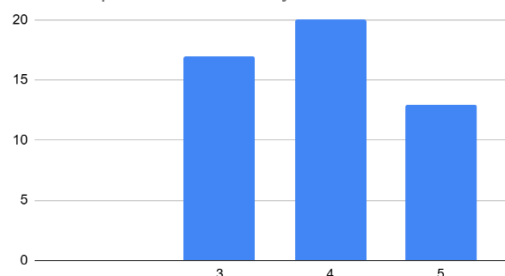
出所：調査結果より筆者作成

<グラフ 2-仕事観->

5.仕事はあなたの人生の中でどの程度重要ですか？



5.How important is work in your life?

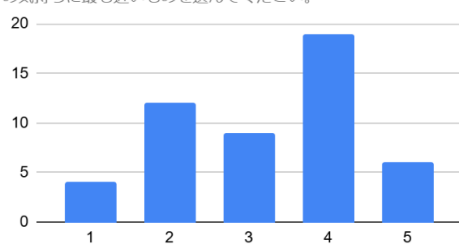


*1 まったく重要でない 5 非常に重要である

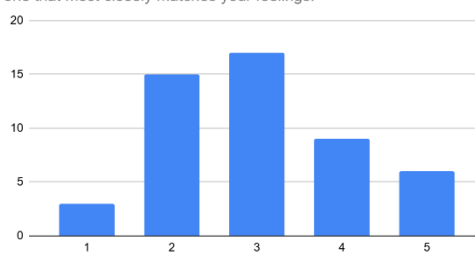
出所：調査結果より筆者作成

<グラフ 3-仕事観->

6.自己実現のために新しいキャリアや仕事に挑戦する際、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。



6.When trying a new career or job for self-actualization, choose the one that most closely matches your feelings.



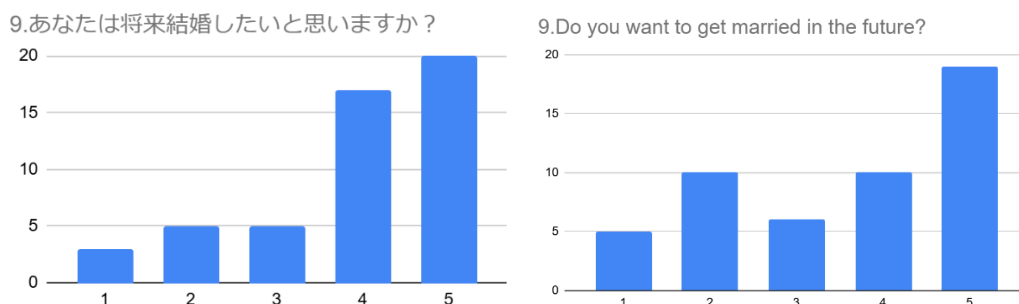
*1 非常に不安を感じる 5 積極的に挑戦したいと思う

出所：調査結果より筆者作成

まずは、仕事観について考察する。仕事観に関する質問は合計で4問であり、その中で2つの結果をグラフ化した。調査結果から、日本の若者は「仕事は重要」と考えている人が多いと分かった。グラフ2では「4(やや重要)」と回答した割合が最も高く、仕事を人生において重要視する意識が強いことが示されている。一方、グラフ3では「4(やや挑戦したい)」が最多でありながら、「2(やや不安)」も比較的多い。このことから、日本の若者は仕事の重要性を認識しつつも、新しい挑戦に対して前向きな傾向があるが慎重に考える人も一定数いる。オーストラリアの若者の結果と比較すると、仕事の重要性に対する考え方がより極端であることが分かる。オーストラリアのグラフ2では「4(やや重要)」と「3(どちらとも言えない)」がほぼ同じ割合であり、仕事を人生において重視するかどうかの意識には個人差があることが示唆される。また、グラフ3では「3(どちらとも言えない)」と「2(やや不安)」が多く、新しい挑戦に対する考え方はやや慎重に選択している可能性がある。

日本の若者の仕事観についての結果は、かつての「終身雇用・安定志向」が強い時代と比べると、転職が一般的になりキャリアの選択肢が多様化していることが影響しているかもしれない。ホフステード6次元モデルからは「日本の若者は安定を求め、オーストラリアの若者は積極的に挑戦する傾向がある」としていたが、今回の調査結果を見ると、日本の若者は「挑戦したい気持ちはあるが、まだ慎重な姿勢を崩せない」という段階にあると言える。これは日本社会が変化しつつあることを反映しており、今後さらに仕事における挑戦を前向きに捉える人が増える可能性がある。オーストラリアの若者については、仕事の重要性について「3」と答えた人も多いことからワークライフバランスを重視していると言える。

<グラフ4-結婚観->

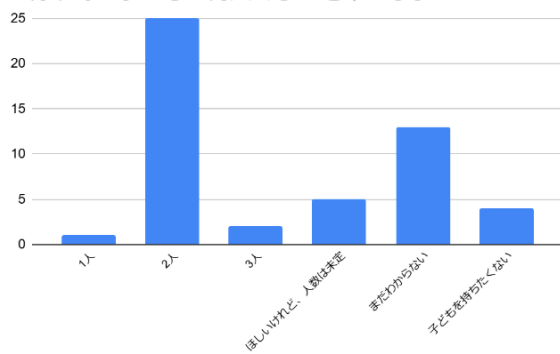


*1 まったくそう思わない 5 非常にそう思う

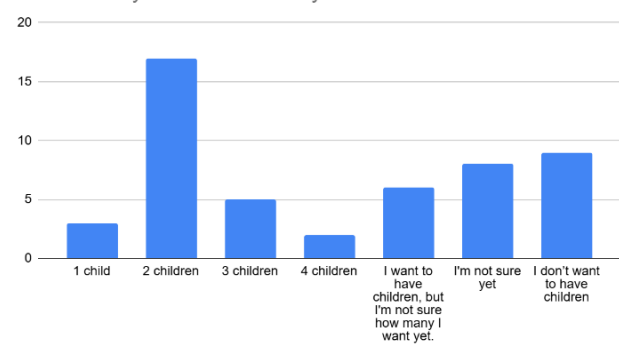
出所：調査結果より筆者作成

<グラフ5-結婚観->

12.将来的に子どもは何人くらいを希望しますか？



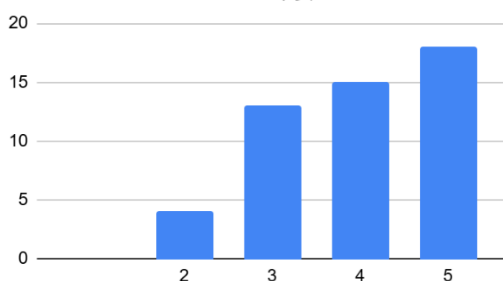
12.How many child/children do you want have in the future?



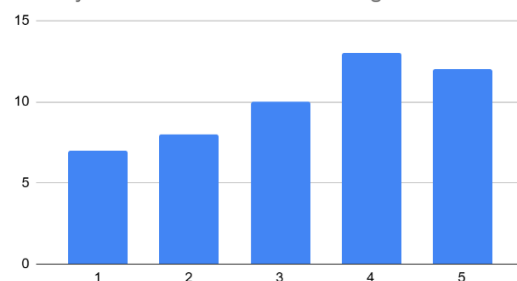
出所：調査結果より筆者作成

<グラフ 6-結婚観->

13.子どもを持つことについて不安を感じていますか？



13.Do you feel anxious about having children?



*1 まったく不安でない 5 非常に不安である

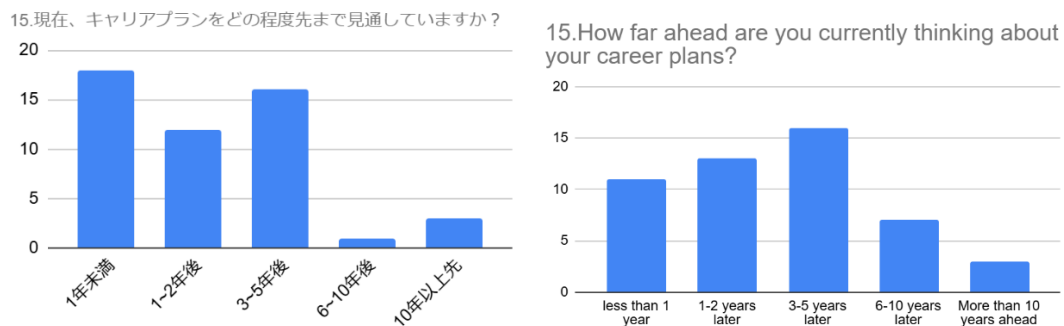
出所：調査結果より筆者作成

次に結婚観について考察する。結婚観に関する質問は合計で6問であり、その中で3つの結果をグラフ化した。グラフ4では日本の若者は多くの人が「結婚したい」と回答し、特に「5（非常にそう思う）」の割合が高かった。一方で、「結婚したくない」と答えた人も一定数おり、その主な理由として、経済的な不安が挙げられた。オーストラリアの若者も結婚に前向きな意識を持つ人が多いが、「1（まったくそう思わない）」から「3（どちらとも言えない）」の割合も比較的高い。その理由として結婚を必須と考えず、一人で生きる選択肢やパートナーシップの形を柔軟に捉えているという意見が目立った。結婚に関連しグラフ5、6では子どもに関する質問を作成し、さらに自由回答で子どもに対する不安や期待について具体的な意見を挙げてもらった。両国に最も共通していたのは経済的な不安であり、どちらの国でも子育てにかかる費用への懸念が挙げられた。また、親としての責任感に対する不安も共通していた。しかし、具体的な不安内容や期待に関しては異なっていた。オーストラリアでは気候変動や世界情勢の変化などのグローバルな視点からの子育てに関する懸念があった一方で、日本では少子高齢化や生活リズムの変化など、より身近なライフスタイルの変化に対する不安が強く見受けられた。また、オーストラリアでは「子どもに良い価値観を持たせたい」といった成長に対する前向きな期待を語る人も一定数いたのに対し、日本の若者は「自分が子どもをうまく育てられるか」という自信の

なさをより強く感じている傾向があった。

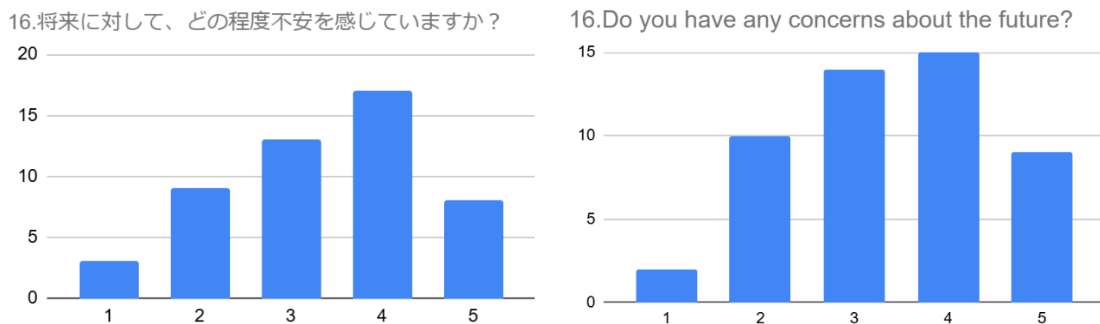
このように、日本とオーストラリアでは、結婚や子育てに対する意識に共通点と相違点が見られた。両国とも結婚や家庭に関心は高いが、経済的不安は共通の懸念として挙げられる。オーストラリアの若者は結婚を選択肢の一つと捉え、子育てにも前向きな姿勢を示す傾向見られた。一方、日本の若者は経済的負担をより強く感じていることと育児への自信のなさから、慎重な姿勢が目立つ。この背景を踏まえると、若者が結婚や子育てを柔軟かつ前向きに捉えるためには、まず社会全体での経済的不安を軽減する取り組みが重要である。働き方改革や育児支援制度のさらなる充実がその一助となると考える。加えて、結婚や子育てに対する考え方において、固定された理想像にとらわれず、自分にとって自然な形を模索することも、不安を和らげる手がかりとなる可能性がある。「こうでなければならない」という伝統的な子育て観や家庭観が、プレッシャーや自信のなさにつながる場合もあるため、自分にとって現実的で無理のない選択肢を考えることが、前向きな姿勢につながる可能性がある。こうした社会的支援と価値観の柔軟さの両面からのアプローチが、若者が自身にとって納得できる未来を描いていく上での手がかりとなると考える。

<グラフ 7-将来観->



出所：調査結果より筆者作成

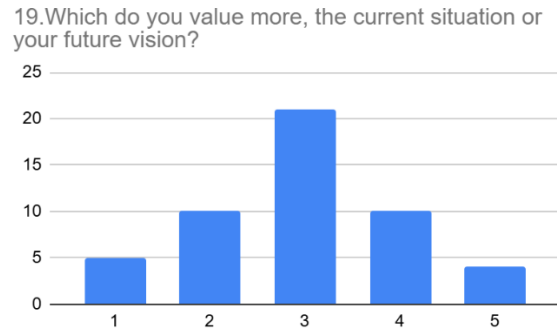
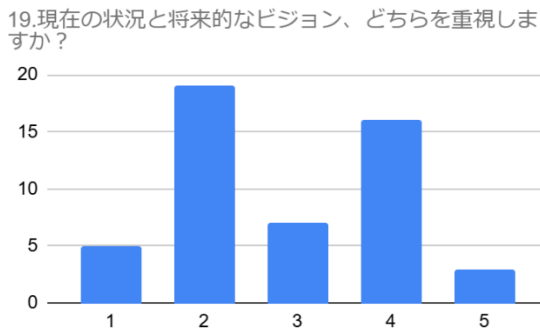
<グラフ 8-将来観->



*1 まったく感じていない 5 非常に不安である

出所：調査結果より筆者作成

<グラフ 9-将来観->



*1 現実を重視する 5 将来を重視する

出所：調査結果より筆者作成

最後に将来観について考察する。将来観に関する質問は合計で5問であり、その中で3つの結果をグラフ化した。グラフ7ではキャリアプランの見通しについて尋ねたところ、日本では「1年未満」と答えた人が最多であった。長期的なキャリアプランを持つ人は少数派であり、これは短期的な将来に対する不安が高いことを示唆している。一方、オーストラリアも短期的なキャリアプランが目立つものの、「6～10年後」を考えている人が日本よりやや多かった。しかし、この差は6人程度であり、長期的思考であるとは言い切れない。また、「1～2年」と「3～5年」にも回答が分散しており、キャリアの選択肢を柔軟に考える傾向があるとも考えられる。グラフ8では将来に対する不安の度合いを尋ねた。日本、オーストラリア共に「4（やや不安）」が最多で、次に「3（どちらとも言えない）」が多かった。これは、両国の若者が将来に対して一定の不安を抱きつつも、それを極端に悲観していない姿勢が見受けられる。しかし、不安を抱えている種類には違いが見られた。日本は「就職活動」が最も多く挙げられ、オーストラリアは「キャリアプラン」が最も多かった。グラフ9では現在の状況と将来のビジョンのどちらを重視するかについて尋ねた。日本では「2（やや現実寄り）」と「4（やや将来寄り）」に回答が多く、いずれか一方に偏るというよりも、どちらにも意識を向けている層が多いと窺える。一方、オーストラリアでは「3（中立）」の回答が最も多く、現在と将来のバランスを意識している人が比較的多いような傾向がある。また、今後の目標や希望についての自由回答では、日本では「特にない」という意見が目立ったが、オーストラリアでは「医者になりたい」「自分のブランドを持ちたい」など具体的な目標を挙げる声も多かった。

全体として、日本の若者からは就職活動といった短期的な将来の安定を重視するような回答が見られた一方で、オーストラリアの若者からはキャリアプランといった長期的な視点や自己実現を意識した回答が見られた。ただし、すべての若者がそのような傾向に当てはまるわけではない点に留意する必要がある。オーストラリアの若者については必ずしも全員が長期的なキャリアを見据えているわけではなかった。また、日本の若者についても、特に現在の大学生は就職活動への不安が大きく、目の前の課題に意識が向きやすいことから、短期的な視点が強調される傾向が見られた。したがって、両国ともに若者の価値観は一様ではなく、個々の置かれた状況や社会的背景によって多様であることを踏まえる必要がある。

二つ目の調査方法では、オーストラリアの若者 3 名を対象にアンケート調査では深掘りが難しかったテーマである「仕事観」と「将来観」についてデプスインタビューを実施した。対象者は以下のとおりである。インタビューからは彼らの価値観やライフスタイルに関する洞察が得られた。

- ・ A さん (22 歳 男性 大学生)
- ・ B さん (26 歳 女性 社会人)
- ・ C さん (22 歳 女性 大学生)

・ 仕事観：文化や環境を重視する傾向

A は「単なる大企業ではなく、良い文化を持ち、個人を大切にする会社で働きたい」と語った。また、個人として評価されることも重要だと述べ、企業が個々の成長を支援しており、個性を発揮できる環境であることが寄与していると考えられる。

・ 将来観と挑戦への姿勢：リスクを受け入れる柔軟性

B は、仕事で米国へ移住することの挑戦について「不安はあるが楽しみが勝っている」と語り、挑戦に対する前向きな姿勢を示した。C もまた、「挑戦においてリスクを取ることが必ずしも簡単ではないが、自分の成長を促すために必要だ」と述べ、自己成長への強い意識を示した。これらの回答から、新しい挑戦を前向きに捉え柔軟に受けいれていると窺えた。

・ 人生観と文化：「今を楽しむ」文化の影響

A は「将来何が起こるかについてストレスを感じていると現在を楽しむのが難しくなる」と語り、オーストラリアでは「今を楽しむ」文化が生活の中で自然に根付いていることを感じた。また、C は「個々の意見が尊重され、常に自分の選択で生きてきた」と語り、日本とオーストラリアの教育制度の違いについて学んだ。そこには、自らが道を選択するという機会が義務教育機関中に提供されている点が挙げられる。これにより、多様な価値観を受け入れる環境が関係していると考えられる。

・ 社会問題への関心：政治意識と住宅課題

C は、社会問題として住宅価格の高騰を深刻な問題として挙げ、これが将来への不安に影響していることを認識していた。また、オーストラリアでは 18 歳を超えると選挙の投票が義務化されているため、政治に対する意識が高く、「自分の生活に直結する問題として、政治を理解する必要がある」と述べた。オーストラリアの若者は社会問題に対して積極的な関心を持ち、それが将来に対する考え方にも反映されていることが分かる。

インタビューを通じて見えてきた傾向として、オーストラリアの若者は個人の成長や自己実現を重視し、リスクを受け入れつつも前向きに行動する柔軟性を持っていることがわかった。また、「今を楽しむ」文化が自然に根付いているため、将来に対して過度に不安を抱えることなく、自分の選択に自信を持っている傾向があると考えられる。このような価値観は仕事観、結婚観、将来観にも表れ、日本の若者との比較においては、よりオープンで柔軟な姿勢が見られた。

今回の調査結果を総括すると以下の通りである。まず、仕事観について、日本の若者は安定志向

が根強いものの、挑戦への意欲も芽生え始めている。一方、オーストラリアの若者はワークライフバランスを重視し、挑戦に対してリスクとのバランスを考えて慎重に選択している。次に、結婚観においては、両国とも経済的不安が背景にあるが、日本の若者は理想とのギャップやプレッシャーから慎重な姿勢を示すのに対し、オーストラリアの若者は結婚や子育てを柔軟な選択肢として捉えている。また、将来観については、日本の若者が就職活動といった不安から短期的な将来に対する安定を重視する傾向にあるのに対し、オーストラリアの若者は「今を楽しむ」ことを大切に、将来の自己実現にも前向きな姿勢を示していることが確認された。なお、今回の調査は対象者が限られているため、必ずしも全体の傾向を正確に反映しているとは言えないが、各国の社会背景が若者の価値観に大きな影響を与えていることは明らかである。

6. 【その他】

オーストラリアでの調査を通じて、日本と比較してサステナビリティの取り組みが日常生活にしっかりと根付いていると感じた。実際、8日間の滞在中にもその意識の高さを感じる場面が多くあった。例えば、主要なスーパーマーケットではプラスチック製レジ袋が提供されておらず、エコバッグを持参するのが当たり前になっていたのが印象的だった。街中を歩いていると、大規模な公園や緑地が多く整備されており、都市の中でも自然を身近に感じることができた。また、公共交通機関では紙の切符がなく、キャッシュレス決済が基本になっていて、利便性の高さと同時に、紙資源の削減にもつながっていると感じた。

こうした体験を背景にさらに調べてみたところ、シドニーは世界の持続可能な観光地を評価する GDS (Global Destination Sustainability) 指数で、2024 年に世界上位 10 位に選ばれていた。GDS は、環境保全や社会的責任、経済活動など多角的な観点から都市の取り組みを評価する指標である。また、カフェでは紙製容器が使用されていたり、バスには低排出ガスの車両が導入されていたりするなど、生活の細部にまで配慮が行き届いていることも分かった。

また、私は日本のオーバーツーリズムの問題にも関心があったため「観光」という視点からサステナビリティを捉えるヒントを得たいと考え、現地で観光政策に関わる JTB Australia の方にお話を伺った。日本のオーバーツーリズムに関する問題意識をもとに、シドニーでも同様の課題があるのかを質問をした。約 1 時間半にわたり、日本人観光客の誘致を担当するスタッフの方が丁寧にお話をしてくださった。シドニーではむしろ観光客の増加を望んでおり、特に日本人のパスポート所持率の低さを懸念し、より多くの日本人に海外に出てほしいとの意見が印象的だった。

このような体験を通じて、オーストラリアのサステナビリティの取り組みが生活全体に深く根付いていることを実感した一方で、観光業に関しては日本のオーバーツーリズム問題とは異なる視点からの課題を知ることができた。シドニーでは観光客の増加を積極的に推進しており、特に日本人の海外旅行に対する関心を高めることが重要なテーマとなっていることがわかった。この点は、持続可能な観光の発展を考える上で非常に興味深い知見となった。

7. 【今後について】

本調査を通じて、私は同世代であっても国や文化が異なれば価値観も大きく異なることを実感した。不確実性の高い現代において、将来に対する不安を抱える若者は多く、私自身もその一人である。今回の調査は、将来ばかりに目を向けるのではなく「今」という限られた時間を大切にし、全力で楽しむことの意義を深く考えるきっかけとなった。また、「今を大切にすること」と同時に「社会に関心を持ち、自ら行動すること」の大切さにも気づいた。特にオーストラリアにおける若者の政治への関心や投票制度の違いには、自身の将来や社会に対する姿勢を見直す上で大きな示唆となった。何よりも、この調査を通じて多くの人と出会い、交流できたことが、私にとってかけがえのない財産となった。国や文化の違いを超えて人と繋がることで、出会いや対話の一つひとつを大切にしたいという思いがこれまで以上に強くなった。

今後は、異なる文化を持つ人々と交流する機会に積極的に参加し、国別の価値観や社会問題へのアプローチを学びたいと考えている。また、残りの学生生活では、今という限られた時間を大切にし、学業や課外活動で新たな挑戦を通じて知識や経験を深めていきたい。社会に出た後も、今回得た経験と学びを活かし、柔軟かつ前向きに行動していきたい。そして、この経験を一時的なものにとどめず、将来に不安を抱える友人や後輩に対して「今しかできない経験」の重要性を伝えることで、学びと交流の成果を広く活かしていきたいと考えている。

8. 【参考サイト】

*図 1…The Culture Factor Group「Country Comparison Tool（国別比較ツール）」

<https://www.theculturefactor.com/country-comparison-tool?countries=australia%2Cjapan>

(2025 年 3 月 15 日閲覧)